

Market Flash

発表日: 2020年4月9日(木)

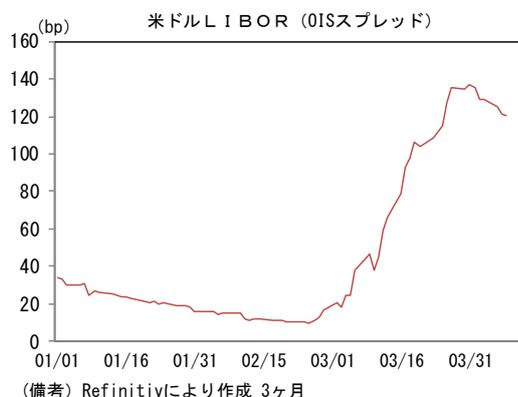
- ・ 思いのほか底堅い製造業
- ・ IT関連財の回復サイクルは持続している可能性

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

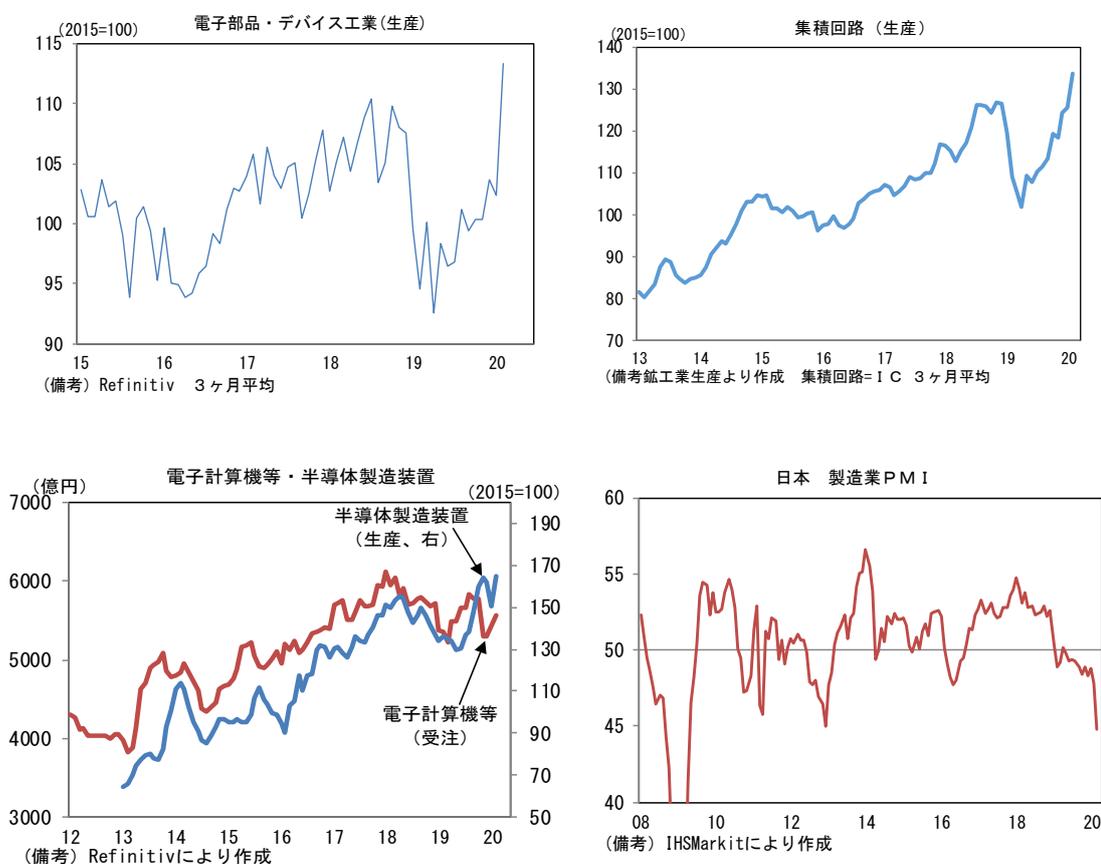
- ・ 日経平均の20,000円定着には、6ヶ月程度の時間を要するだろう。
- ・ USD/JPYは、先行き12ヶ月105程度で推移しよう。
- ・ 日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・ FEDはゼロ金利政策下で資産購入を継続するだろう。

< #サンダースリスク後退#LIBOR落ち着く#IT華南連財 >

- ・ 前日の米国株は上昇。欧米における新型コロナウイルス問題のピークアウトに対する期待に加え、民主党サンダース氏の大統領選離脱表明が材料視された。また減産期待から原油が急上昇。NYダウは3.4%、NASDAQは2.6%上昇。なお、ユーロ圏共同債の発行等が議論されていたEU財務相会議は妥結に至らず。一時イタリア国債金利の上昇を招いたものの、グローバルなリスク性資産への影響は限定的であった。VIXは43.4へと低下し、4日連続で50を下回った。
- ・ 米金利カーブはベア・スティープ。10年は0.772% (+6.0bp)、30年は1.377% (+8.2bp)へと上昇。短期金融市場ではLIBOR (OISスプレッド) が小幅に縮小。金融システムは依然として強い緊張状態にあるとはいえ、米ドル流動性は落ち着きつつある。USD/JPYのベース・スワップは+11へとプラス幅縮小 (ドル調達コストは上昇方向)。商品は、WTI原油が+25.09ドル (+1.46ドル)、金が1665.4ドル (+0.6ドル)、銅が5002.5ドル (▲37.5ドル) とまちまち。クレジット市場ではハイールド債が反発 (利回り低下)。



- ・ところで現時点で得られている日本のマクロデータは、製造業を中心に思いのほか底堅いものが散見される。公式統計では鉱工業生産（2月）、貿易統計（2月、3月上中旬）、機械受注（2月）などがあり、傾向として浮かび上がるのは19年後半から回復サイクル入りしたIT関連財の底堅さである。鉱工業生産統計では電子部品・デバイス工業の増産傾向が持続しており、特に集積回路（IC）や半導体製造装置が強い。機械受注統計でみても、半導体製造装置が含まれる「電子計算機等」は底堅く推移している（ただし、受注キャンセルの可能性はある）。また、3月上中旬貿易統計（報道ベース）では半導体製造装置の輸出が堅調だったという。さすがに3月の製造業PMIは低下したものの、こうした中でもIT関連財の回復サイクルは持続していた可能性がある。今後、世界的なテレワーク需要拡大に伴うデータセンターの能力増強が予想されることを踏まえると、19年後半から続く回復サイクルは途切れない可能性がある。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。